

「美濃出身は確実」「やられる前に下克上」

光秀の実像に迫る

東濃信用金庫主催の講演会が、可児市下恵土の市文化創造センターで開かれ、小和田哲男静岡大名学教授が「明智光秀 知られざる実像」と題して、光秀の前半生の謎に迫った。

(山田孝二)

小和田氏は戦国史研究の第一人者として知られ、来年1月から放送予定のNHK大河ドラマ「麒麟がくる」で時代考証を担当する。

講演では「光秀の若い頃のことは分かっていない」とし、た上で出生地、生年、父の名前について複数の学説を紹介。生年は1516年、15

「麒麟がくる」時代考証担当

小和田哲男氏が講演

可児市



23年、1540年の3説のうち「本能寺の変の時の年齢を考えると、1523年説が妥当ではないか」と述べた。出生地は可児市瀬田など県内の4説を説明し、最近出てきた近江説でなく「美濃出身なのは間違いない」とした。斎藤道三、朝倉義景との関連を説明した後、織田信長の家臣としての働きぶりについて「坂本城とその周辺の土地が与えられ、一国一城の主の第1号となった」と紹介。出世を続け、織田家臣団のトップに上り詰めたとした。本能寺の変の真相については「信長のままでは日本がどうなるんだろうと考えた下克上の一環ではないか。やられる前にやる、そんな思いもあったのでは」と述べた。

明智光秀について講演する小和田哲男さん。可児市下恵土、市文化創造センター